

# 釜石市の復興を支援する北九州市職員



### 北九州市釜石デスク 竹内邦彦復興支援統括官

本市は、震災発生直後から職員を釜石市へ派遣し、復興支援を行ってきました。職員の派遣は、保健師に始まり、当初は避難所の運営や市民課・税務課の窓口業務などを行う事務職員が中心でしたが、復興計画が動き出すにつれ、復興工事に関わる技術職員中心へと移行してまいりました。

現在、釜石市には10人の職員が派遣されており、ほとんどの職員が被災者と同じ仮設住宅で暮らしています。同じ環境で生活し、被災者の置かれている状況を共有することで、職員たちの意識向上にもつながっていると思えます。

私の仕事は、復興の状況や釜石市の支援ニーズを把握し、両市の関係部局との調整や派遣職員のサポートなどを行っています。私たちの仕事は、釜石市の早期復興の一助になればと思います。職員一人丸となって日々業務に取り組んでいます。



### 建設部都市計画課都市計画係 瀧口庸司係長

私は、平成27年4月から派遣され、都市計画決定の変更と橋・道路および公園・広場等の施工監理などを行っております。現在は、まさににぎわいの復興を支援しています。



### 復興推進本部都市整備推進室 都市拠点復興係 内村英樹係長

私は、釜石市中部で用地買収を行っている。中心部の地区では、市がすべての土地を度買収し、盛り土などの造成をした後、再分譲するという他の地

わいを取り戻すためのフロントプロジェクトで誘致した大型商業施設から国道283号線につながる橋の建設を担当しています。この橋は、商業施設に集まった人たちの避難路としての機能を併せ持ち、28年度中に完成させる予定です。

釜石への派遣を希望した理由は、釜石市は技術職が不足していると感じ、自分の経験を生かせると思ったこと、ボランティア活動をしたいという理由もありました。今は、月2回ほど釜石市社会福祉協議会のボランティアに参加し、仮設住宅の掃除や、仮設住宅から復興公営住宅へ引っ越しする人の手伝いなどを行っています。私も仮設住宅暮らしですが、集会所でお茶や菓子を持ち寄り集って集い「お茶こ」に参加し、釜石の人の温かさを感じています。

釜石への派遣希望は、震災発生当時、区役所ロビーにあるテレビで津波の生中継映像をたまに目にして強い衝撃を受け、用地買収の仕事の経験を復興に生かせないかと思ったことがきっかけです。とはいえ、こちらへ来るまでは正直迷いもありました。今は、釜石市に来て良かったと思っています。



### 復興推進本部都市整備推進室 区画整理係 長岡睦美主査

私は、区画整理のための物件移転補償交渉をしています。

担当している地区では、平地のほとんどが津波で壊滅的な被害を受けました。現在は、人が住めない危険地区



### 復興推進本部都市整備推進室 都市拠点復興係 猪股博之主任

私は、岩手県大船渡市出身で、実際に東日本大震災を経験し、自宅も津波で床下まで浸水しました。その後、平成24年に北九州市役所に転職し、震災の経験を少しでも生かせれば

区での公共施設の再整備や、土地を4.5mかさ上げする工事を含む区画整理事業を進めています。

釜石では、市の中心部における道路のかさ上げや整備、住宅・商業地のかさ上げ工事の発注などを担当しています。特に、市街地の東側は7mもかさ上げをするので工事の規模も大きく他の機関や工事関係者との調整などに苦労しています。また、工事の発注は順調に進みましたが、人手不足が深刻で工事の進捗はなかなか思うようにはいきません。このような状況のため、いまだに中心部の道路でも水が溜まったりする箇所も多いことから、社会活動に支障が生じているのではないかと早く整備を進めていきたいです。

北九州市民の皆様には震災直後からこれまで、当市の復興に多大なるご尽力をいただき、釜石市民を代表して心より感謝を申し上げます。震災から間もなく5年が経過しようとしておりますが、住まい・暮らしの再建は道半ばであり、一刻も早く安心して日常を取り戻せるよう、生活と暮らしの再建を最優先課題として取り組んでまいります。

## 釜石市長のメッセージ



北九州市民の皆様には震災直後からこれまで、当市の復興に多大なるご尽力をいただき、釜石市民を代表して心より感謝を申し上げます。震災から間もなく5年が経過しようとしておりますが、住まい・暮らしの再建は道半ばであり、一刻も早く安心して日常を取り戻せるよう、生活と暮らしの再建を最優先課題として取り組んでまいります。

## 復興に向けて

大震災から5年が経過する今、「釜石市復興まちづくり基本計画」に掲げられた施策の9割以上が、事業実施中という進捗状況にあります。

しかし、被災者が入居する復興住宅の完成は4割程度で、いまだに仮設住宅での不自由な暮らしを余儀なくされている人たちが多く存在します。復興は道半ばであり、今後も被災地の復興に向けて継続的な支援が必要となる状況です。



### 産業振興部水産課基盤整備係 末永芳治主査

私は、平成24年に水産関係の第1回として派遣され、今回が2回目の派遣です。1回目の後、やり残したことが



### 復興推進本部都市整備推進室 漁業集落復興係 藤本敦主査

私は、平成26年4月から釜石に来ています。仕事は主に被災地区における造成工事の施工監理や地元調整



### 復興推進本部復興住宅整備室 中野功治主任

私は、平成26年4月から派遣され復興公営住宅の建設工事の監理を行っています。阪神大震災の際は避難所運営のボランティアを、また釜石派遣の前には、震災発生直後の福島へ支援職員として派遣された経験があり、また機会があれば支援活動に行きたいと考えていましたので、今回はこれまでの経験が生かせるのではないかと、釜石市に来ました。

写真の建設中の復興公営住宅は、6階建てで44戸の予定です。ここは建物4棟が外回りの廊下でつながっている珍しい構造で、住居も単身用と家族用が混在しています。これは住民による単身世帯の見守りの機会を増やす狙いがあります。また、鉄筋コンクリートではなく鉄骨構造となっているのは、揺れに強いことなどが背景にあります。

## 現地で頑張る北九州市職員



## FDA乗継便で行く被災地視察・世界文化遺産見学ツアー

フジドリームエアラインズ(FDA)の就航1周年と北九州空港開港10周年を記念し、FDAの全面協力により、被災地視察ツアーを開催します。



昨年3月29日に就航したFDA機



復興工事の様子(釜石市)